

商品先物
あ・ら・
かると



IT化進む海外の商品取引所

市場経済研究所
主幹

岡本匡房

遅れれば存亡の危機に

2000年8月27日。この日は世界の商品先物取引にとって歴史に残る1日になりました。商品取引所の雄、CBOT（シカゴ・ボード・オブ・トレード）がそれまで使っていた電子取引システム「プロジェクトA」をやめ、ドイツとスイスの取引所、EUREX（ユーレックス・フランクフルト）が使っていた電子取引システム「Xetre（クセトラ）」に変えたのです。

CBOTが敗北

CBOTは長い間、世界最大の商品取引所として君臨してきました。しかし、電子化で遅れをとり、出来高が減少。1999年には出来高トップの座をEUREXに譲り渡していました。それが、さらに、電子取引システムまでEUREXのものに切り替えたから事です。「CBOTはシステムでも敗北した」との声まで飛び出しました。その余波で会員相場が急落。2000年12月のCBOTの会長選挙では2期目をねらったデビッド・ブレナン氏をニック・ニューバウアー氏が破るというおまけまでつきました。

いま、世界の先物業界は激しいIT化の波にさらされています。その発端となったのが1992年でした。この年、米国のCME（シカゴ・マーカンタイル取引所）が英国のロイター通信社、フランスのMATIF（フランス国際先物取引所）と共同で電子取引システム

GLOBEX（グローベックス）を稼働させたのです。GLOBEXにはCBOTも翌1993年に参加しましたが、すぐに脱退。独自の電子取引システム「プロジェクトA」を稼働させました。それを2000年にはEUREXのシステムに換えたわけで、業界はより利便性の高いシステムへの転換が急ピッチで進んでいることを如実に物語っています。

高まる利便性、信頼性

ではなぜ電子取引システムなのでしょう。それは従来にない利点があるからです。第1がコストの削減。俗に場立ちといわれる売買仲介人がいなくなり、人件費が減少します。ちなみにCBOTは立会場だけで6,000人がいるといわれていますので、それが半減しただけでも膨大なコスト削減になります。一説には10分の1になるとのことです。

第2が売買が正確になることです。人間同士だと、時に「買った、買わない」といったことも起こりますが、コンピューターではそのようなことはありません。いわば信頼性が高まるのです。

第3が時間外でも取引できることです。場立ちを使うと取引時間内でしか取引できませんが、コンピューターなら理論上は24時間、取引可能です。実際には主要取引所はまだ24時間は行っていないですが、それに近い線になっています。

最後が別の取引所でも売買できることです。取引所が提携、システムを共用すれば「ニューヨークで買ってシドニーで売る」ことも簡単にできます。いわば利便性が高まり、世界が一大ネットワークで結ばれる可能性が出てきたことです。現に日本では「シカゴの夜間相場高を映して国内相場も上昇」という事態が頻繁に起こるようになりました。

この結果、電子取引システムを採用するかどうかで、取引の利便性、信頼性に大きな差がで、取引所の存立そのものにまで影響を与えるようになりました。

LIFFEの敗北、復活

そのよい例が前に挙げたCBOTですが、もう1つ、より顕著な例にLIFFE(ロンドン国際金融・先物オプション取引所)があります。LIFFEはドイツ国債など金融先物で急成長。1997年には出来高世界第3位を誇る取引所になりました。ところが、電子化が遅れ、先行したEUREXにお客を奪われ、翌98年には13年ぶりに赤字に転落したのです。

その結果、コンピューター化を進めるとともに大幅な人員削減を含む大リストラを敢行。2000年には大幅黒字を計上、見事によみがえりました。2000年3月には金融商品をすべてコンピューター化し、同年中に商品先物もコンピューター化しました。

逆に電子取引所システムをテコに大躍進をしたのがEUREXです。その前身、ドイツ取引所は1997年11月、電子取引システム「Xetre」を稼働させるとともにロンドンに駐在員を置いて、攻勢をかけました。これが見事に奏功。1999年にはCBOTを抜いて出来高トップの座に踊り出ました。さらにチューリヒ取引所とも合併。2000年には出来高をさらに増やし、

トップの座を一層堅固なものにしています。

米国も巻き返しへ

このように電子取引システムに熱心なヨーロッパ諸国に対し、米国はいまひとつです。というのも、長い間、世界の先物業界に君臨していた結果、急に旋回しようにも既得権を持つ企業、人々の抵抗が激しいからです。ただ、米国はかなりドラスティックな変化を引き起こす国なので予断は許しません。IT革命は単に取引内容だけでなく、制度、人間をも変えつつあるのです。

海外の電子取引の主な出来事

92/6	CME、ロイターなどが提携し、世界初の電子取引システムGLOBEXを稼働
94/10	CBOT、プロジェクトAを稼働
97/2	CME、GLOBEXでNYMEX、パリ証券取引所、MATIFと提携
97/11	ドイツ取引所、電子取引システム「Xetre(クセトラ)」の稼働開始
98/9	GLOBEXにBM&Fとモントリオール取引所が参加
98/9	CFTC、キャンター・フィッツジェラルドに電子先物取引所を認可
98/12	LIFFE、電子取引システム「LIFFEコネクト」稼働
00/3	CFTC、米国初のインターネット使用の商品取引所「フューチャー・コム」を認可
00/6	LIFFE、年内メドにネット取引所の設立決める
00/6	CFTC、ネット取引所のセントルイス商品取引所認可。ページの運賃を取り
00/8	CBOTとEUREX、電子取引システムを統合。EUREXのシステムを使う